

株式会社エフピコ
2024年3月期 決算説明会 質疑応答（サマリー）
(2024年5月8日)

Q：第3次の価格改定を発表したが、その実現に向けた手応え、ユーザーの反応を教えてください。

A：様々な資材が値上がりしている中、ディーラーは価格改定に協力的である。ユーザーからの反応はまだ限定的だが、「予想通りの値上げ」という反応が多い。粗原料だけではなく、電気代や人件費などの上昇もあり、値上げについて一定の理解がなされている。

Q：新OPPについて、自動車、住設、家電製品といった新たな分野への展開になると思うが、販路は築けているのか。また、設備投資についても教えてください。

A：茨城県にバックアップ倉庫と新OPPの生産ラインを設置することを検討している。自動車や建材など、従来とは異なるマーケットへの展開については、当社だけで行うとは考えておらず、様々な形で進める可能性がある。具体的にはこれから2、3年かけて行う予定だが、2027年には新OPPが手に入る前提で進めており、そのために今回リリースを発表した。既に問い合わせが増えており、注目度は高い。

Q：今期の製品販売枚数について、上期は5%の増加が見込まれているが、下期は前年並みとなっている。下期の数量が伸びない理由と来年以降の年平均成長率について教えてください。

A：シェア争いをしているため値上げはできない。そのため、下期は販売数量の伸びを計画に折り込んでいない。年平均成長率については、原料価格や電気代が現状のままであれば、3%の成長はそれほど難しくないと考えている。

Q：オリジナル製品の構成比が既に高い位置にあるが、今後、製品ミックスについてどのような変化が期待できるのか、単純な数量の伸び以外の観点から教えてください。

A：エコ製品が継続して伸びている中、設備の増設等でエコ原料が増えることでエコ製品の比率がより高まると見ている。

Q：冷凍食品と介護市場へは過去数年間、すでに取り組んでいると認識しているが、成長が遅い印象がある。今後、どのように成長を一段と加速させていくのか。

A：ご指摘の通り、思っているより成長は遅く、一定の市場になるには時間がかかるかもしれない。しかし、人手不足の状況から、容器の回収・洗浄が困難で、食事の供給も難しくなっている。また、冷凍食品に対応した什器の開発により様々な実験が進められており、ある時点から急激に伸びると見込んでいる。

Q：DICとの共同開発によるインキを抜く技術について、ビジネスとして立ち上がる時期や、インキはしっかり抜けるのかについて教えてください。

A：インキ抜き技術は確立されている。リサイクルの重要なポイントは対象物をいかに集めるか。現在、

年間 6,000 トンのトレーを市場から回収しており、そのうち 3,000 トンをすでにトレーに再生している。残りの 3,000 トンはインキが付いているので別の用途にリサイクルされているが、うち 1,000 トンはインキを抜いたうえで来年には再生原料として供給される予定。残りの 2,000 トンについてはケミカルリサイクルを検討中であり、3 年後には実現する見込み。これにより、カラーを含むすべての回収トレーを再度トレーに戻す完全循環が可能になると考えている。

以上